

山行報告書

受 付 No.	1 6 7	登山地・ルート	木曽駒ヶ岳～細尾沢より
目 的	釜ノ沢遡行に向けてのトレーニング&100名山ハント		
メンバー	大山、松野		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム							
8・28・土	晴れ	浜松＝ｽｷｰ場①～入渓～玉ノ窪沢～細尾沢～木曽小屋～木曽駒～避難小屋～② 6:55 7:40 9:36 10:21 14:31 14:50 16:40 18:32 ＝浜松							

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【入渓～細尾沢出合】ｽｷｰ場の駐車場はたくさんあり、停める場所がよく分らず、支度中の登山者に教えてもらう。同じくらいに登山口周辺にいた4、5パーティはみな沢登りだった。茶臼山コースの途中にある吊橋を目印に入渓。入渓直前、松野さんが行動食&水を車に置き忘れたと気付くが、2人分でも十分な行動食を持っていたのでそのまま行く。正沢川は特に困難な箇所はないが、大きな石が転がっていて、それらを乗り越えるのに疲れた。効率が悪かったせいか、参考タイムより1時間オーバーして玉ノ窪沢出合。このペースではｽﾏｲと思っただが、細尾沢出合には順調に着いた。

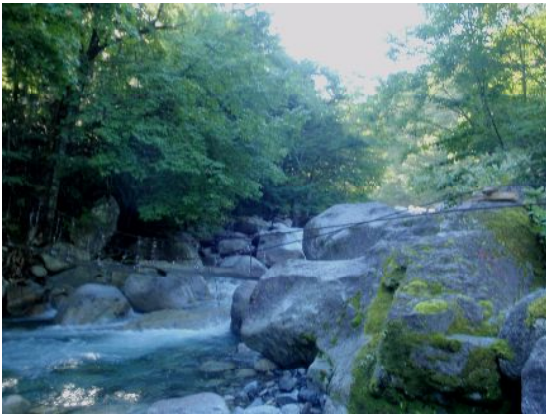
【出合～木曽駒ヶ岳】細尾沢に入ってからすぐの滝は、右端からｽﾗｯと登ってはみるが途中で行き詰まり、藪に逃げて巻く。この辺りで先行者を発見。細尾大滝で追いついてみれば、駐車場で会った2人パーティで、茶臼山コースの途中から分かれていた沢登りコースなるものを進んで入渓したらしい。彼らは大滝を左岸から巻こうとしたが悪いので右岸から巻こうと戻ってきたとのこと。こちらは予定どおり左岸のがいた沢を詰めて行った。言うほど悪くはなかったが、事前にもらっていた、あまり早く左(滝の方)へ行ってはならないというアドバイスから過剰に警戒して巻きすぎ、沢から大分離れてしまった。藪漕ぎして落ち口を見下ろす所まで来ると、2人パーティが既に河原に下りてくつろいでいた。彼らの方へ下りるのは癪なので、なるべく離れた所へと進んで行き、なんとかこちらで沢へ下ることができた。この時点で既に11時半ちかく。1泊山行の彼らと同じペースであることに少し焦る。しかしここから沢は開け、素晴らしい景観を楽しめた。滝もそれほど難しくもなく、水の中を気持ちよく登ることができた。時折、稜線からガスが下りてくるが全体としては天気も良い。やがて水量が減り、あっさり遡行は終了となってしまった。途中で靴を履き替えながら2ピッチ弱、足場の悪い斜面を登りきって稜線に出る。木曽小屋から山頂は数分。

【木曽駒ヶ岳～駐車場】下山は登山道とはいえ、初めて歩く道。暗くなる前になるべく下まで行きたいと気持ちは急ぐが、足は最後の稜線までの詰めで疲れきっている。8合目の水場で水を補給。すごく冷たい水だった。7合目の小さな避難小屋には沢をやってきたと思われる人がたくさん入っていた。なんとか暗くなる前に登山口に到着。近くの堰堤下ではﾀｰﾌﾟが張られて焚火の煙が流れていた。ひと息いれて、駐車場まで戻る。温泉は、駒の湯にて700円(ﾀﾞﾙﾄ)。

【その他】大山、突き出ている枝に膝をひっかけ長さ4cmくらいの軽い裂傷を負う。2回ほど滝の登りで滑り落ち、更にその傷を打撲。「(滑り方が)ﾏﾝｶﾞみたい」と知らずに笑う松野さんに合わせて笑いながら痛みを耐える。細尾沢を日帰り山行で計画した時点ではやや沢をなめていたが、計画書提出の際、行動時間等に関する忠告を受けたことで心構えが変わり、予定時間が多少オーバーしても落ち着いて行動できたと思う。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



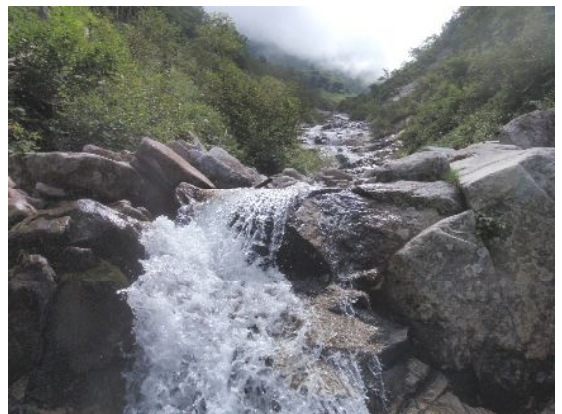
入溪点…頼りない感じの吊橋があった。



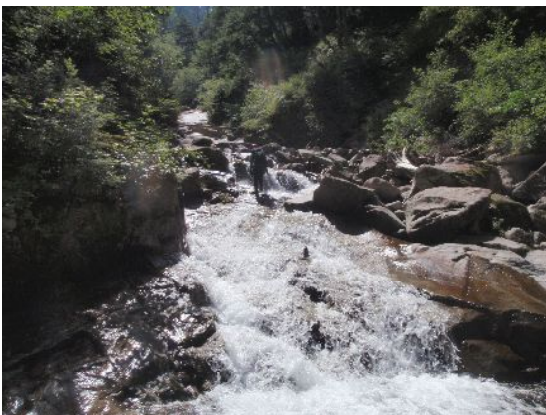
細尾大滝



玉ノ窪沢出合



連なる滝



細尾沢出合付近



稜線までの最後の登り